

読んでみたい
この一冊

大阪産業経済リサーチセンター
主任研究員 越村惣次郎



『未来の年表2 人口減少日本であなたに起きること』

●河合 雅司 著 講談社現代新書 840円(税別)

本書は、ジャンルとしては人口減少をテーマにした一般向けの書籍ですが、ビジネス書としても意味があります。人口減少に関する書籍はほかにもありますが、本書の特徴は、社会ではなく、個人の生活や仕事に焦点をあてているところにあります。個々の読者も社会的変化ではなく、個人レベルでリアリティのある未来を想像することができるようになっていきます。そして人口減少社会において個人が直面する具体的な課題を知ることが、新たなビジネスチャンスを見出すヒントにもなるでしょう。

日本の人口減少については、既に様々な社会課題が提示され、政府や企業による対策ははじまっています。しかし著者は、そうした対策にズレを感じるといいます。政府が打ち出した新たな教育や子育て支援に意味がないとはいいません。しかし既に少子化が進んだ日本では、今後数十年間、高齢化に歯止めをかけることはできません。政府が取組むべき政策は、高齢者中心の社会を前提としてもなお「豊かさ」を維持するためのダイナミックな政策であると指摘しています。また企業の技術開発をみても、「8K」などの超精密詳細映像システムは素晴らしい日本の技術ではあるが、超高齢社会で老眼鏡をかける人が増えるなか、必要な技術は映像よりも音ではないかと指摘しています。

人口減少を社会レベルではなく、個人レベルで認識するとこうしたズレは生じにくくなります。また人口減少が、自分の生活や仕事をどのように変化させるかを想像できれば、それに対してどんな準備が必要となるか考えることも容易になります。著者は前作にあたる「未来の年表」において、人口減少が日本に及ぼす影響を独自の視点から示し好評を得ましたが、その際に国の政策の対象となる社会課題ではなく、個人レベルで起こることを教えてほしいという声が多く寄せられました。本書は、そうした要請に応え執筆されたものです。

本書の構成は、「はじめに」、「第1部全5

章」、「第2部全4章」、「おわりに」、「結びにかえて」、となっています。

「はじめに」では、人口減少への対策として政府が掲げている政策や企業による技術開発が、必ずしも個人レベルでの対策に繋がっておらず、ズレが生じていることについて指摘しています。この指摘こそが本書の一貫した問題意識となっています。

続く「第1部 人口減少カタログ」では、人口減少によって変化する個人の生活や仕事について、具体的な事象として紹介しています。各章のタイトルは「第1章 あなたの住まいで起こること」、「第2章 あなたの家族に起こること」、「第3章 あなたの仕事で起きること」、「第4章 あなたの暮らしでおこること」、「第5章 女性に起きること」となっています。

次に「第2部 今からあなたにできること」では、第1部でみてきた個人レベルで生じる課題やリスクに対応するために、各個人や企業ができる対策について、筆者の考えが提示されています。各章のタイトルは「第1章 個人ができること」、「第2章 女性ができること」、「第3章 企業ができること」、「第4章 地域ができること」となっています。

本章には、各種統計データを踏まえつつも、筆者独自の見解も多く、時には批判的に読むことも必要でしょう。しかしながら、リアリティのある未来を想像するに最適な一冊と言えます。そこには多様なビジネスチャンスのヒントも隠されていることでしょう。

【著者略歴】

河合雅司(かわいまさし)

1963年、名古屋市生まれのジャーナリスト。産経新聞社論説委員、高知大学客員教授ほか。

2014年「ファイザー医学記事賞」大賞受賞。

主な著書に「日本の少子化 百年の迷走(新潮社)」、「地方消滅と東京老化(共著、ビジネス社)」、「未来の年表(講談社現代新書)」がある。